

シラバス B (Syllabus B)

科目名 Class	開講セメスター Semester	曜日・時限 Day of the Week, Period	単位数 Credit	授業担当者 Instructor
地域研究 (アメリカ)	春・秋	木 1・2	2	菊池重雄

授業概要 (Course Outline)

いまでは当たり前のようにアメリカ合衆国は多民族国家であるといわれます。しかし、全国民の政治参加という意味でアメリカが多民族国家になったのは、マーティン・ルーサー・キング・ジュニア (キング牧師) を中心とする公民権運動が受容、評価された 1960 年代以降のことです。公民権運動はアフリカ系アメリカ人とどまらず、日系アメリカ人やラテンアメリカ系アメリカ人、ネイティブ・アメリカンなどのエスニック・マイノリティと呼ばれる人々に多大な影響を与え、今日の多民族国家アメリカの基礎を築きました。この科目では、このようなアメリカのエスニシティの先駆者としてキングをとり上げ、その思想と活動をアメリカ民主主義との関連から考察します。そのさいに、授業では、キングの活動拠点であるアメリカ南部に着目し、南部諸都市=アトランタ、モントゴメリー、バーミングハム、オルバニー、セルマ、グリーンズボロ、メンフィス、ワシントン DC、リトルロック) が、どのようなプロセスを経て、政治的差別を克服し、曲がりなりにも民主主義を確立していったかを検証していきます。

授業を通して修得できる力 (Competency Goals)

知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature	○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening 数量的スキル Mathematics 情報リテラシー Information Literacy 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking 問題解決力 Problem Solving	
態度・志向性の観点 Personal Qualities	自己管理能力 Self-management チームワーク Teamwork リーダーシップ Leadership 倫理観 Ethical Sense 市民としての社会的責任 Social Responsibility 生涯学習力 Lifelong Learning	○ ○

到達目標 (Objectives)

わたしたちの世界に民主主義を実現させることの意義を自分の言葉で他者に説明することができるようになります。アメリカ南部社会に民主主義が実現されるまでのプロセスを、ケーススタディーとして検証することで、わたしたちが地域 (地域社会および国、世界) に民主主義を定着させるさいに、まず、どのように考え、行動したらよいかを具体的に理解することができるようになります。

先行履修科目の有無は、学生要覧で確認すること。

授業計画 Course Schedule

	テーマ Theme
第 1 回	なぜ日本の中学生は “I Have A Dream” を英語で読ませられるのか？

第2回	アメリカ合衆国における南部（1）—南部意識はどのように形成されたか？
第3回	アメリカ合衆国における南部（2）—南部における差別の構造
第4回	キングとモントゴメリー（1）—モントゴメリーの抵抗：はじまりとしてのバス・ボイコット運動
第5回	キングとモントゴメリー（2）—バス・ボイコット運動におけるキングの役割
第6回	キングとアトランタ（1）—「アメリカ黒人の首都アトランタ」の役割
第7回	キングと南部の小都市—公民権運動の成否と地域経済格差
第8回	キングとバーミングハム（1）—バーミングハムの戦い：なぜバーミングハムか？
第9回	キングとバーミングハム（2）—バーミングハムの獄中からの手紙
第10回	キングとバーミングハム（3）—バーミングハム住民の視点から見る公民権運動
第11回	キングと首都ワシントン DC（1）—公民権運動における首都の役割／キングにおけるラインホルド・ニーバーの受容
第12回	キングと首都ワシントン DC（2）—アメリカ合衆国は誰のものか？
第13回	キングとメンフィス—道徳的正義から経済的正義の確立へ
第14回	キングとアトランタ（2）—世界へと向かうアトランタ発の「民主主義」
第15回	アメリカ南部の現在—公民権運動の成果と限界：アメリカ人がキングから引き継ぐもの

教科書 Textbooks

書名 Title	著者名 Author	出版社 Publisher	ISBNコード ISBN Code
『私には夢がある - M.L.キング説教・講演集』	C.カーソン、他（編）、 梶原寿（監訳）	新教出版社	9784400421221

参考文献 (Reference Books)

書名 Title	著者名 Author	出版社 Publisher	ISBNコード ISBN Code
『1960年代アメリカの群像』	菊池重雄・佐藤成男（編著）	大学教育出版	4887307373
『資料で読む欧米の社会と文化』	菊池重雄・佐藤成男（編著）	大学教育出版	4887304536
『マーティン・ルーサー・キング自伝』	梶原寿（著）	清水書院	4389411047
A Testament of Hope: The Essential Writings And Speeches of Martin Luther King, JR.	James M. Washington (Ed)	HarperCollins	0060646918

成績評価方法 Grading Criteria / Method of Evaluation

成績評価の種類 Type	割合 Percentage	評価基準 Grading Criteria
試験 Exam.	20%	試験は 24 時間の take-home examination 形式で実施します。試験では「授業を通して修得できる力」の中の『市民と

		<p>しての社会的責任』の有無が問われます。この科目における学修成果を、具体的に、どのようなかたちで現在の、そしてこれからの社会に還元する用意があるかが訊ねられます。民主主義社会を維持する意義と、維持しなければならない理由について道徳的正義と経済的正義の両側面から述べてもらうことで、民主主義のメッセンジャーとして社会的責任の一部が果たせることとなります。</p> <p>⇨点数配分：道徳的正義と経済的正義の両側面から語られているか（5点）。授業中のディベートの成果が反映されているか（5点）。中学生レベルの子どもたちがわかる言葉で語られているか（5点）。キングの言葉が引用、または参照され、その効果的説明が含まれているか（5点）。計 20 点。</p>
<p>レポート Report</p>	<p>30%</p>	<p>レポートでは「授業を通して修得できる力」の中の『倫理観』の有無が問われます。(1) キングは道徳的正義と経済的正義の確立をめざして公民権運動を展開しましたが、よく知られている非暴力主義だけでなく、市民としての不服従も重要な方策でした。第1回目のレポートでは、上記の2側面から倫理的行動とはどのような行動であるかが問われます。</p> <p>(2) キングの思想を論理的にたどっていくと、一地域の道徳的正義と経済的正義を確立するためには、他地域が、国が、ときには他国のかかわりが必要ということになります。第2回目のレポートでは、テーマとして用意された事例において、わたしたちに要求されるのはどのレベルの倫理的行動であるかが問われます。(1)(2)のレポートとも、自分の思いを自由に書いただけでは点数にはなりません。キングの言葉を必ず引用もしくは参照し、根拠に基づいて、考察してください。</p> <p>⇨第1回レポート：メリット、デメリットを含め2側面から考察されているか（10点、1側面につき5点）。考察のプロセスの中で公民権運動の具体例が有機的に援用されているか（5点）。計 15 点。</p> <p>⇨第2回レポート：倫理的行動と他者への干渉のジレンマについて考察されているか（5点）。ジレンマの克服もしくは克服の見通しについて言及されているか（5点）。考察のプロセスの中で公民権運動の具体例が有機的に援用されているか（5点）。計 15 点。</p>
<p>授業における取り組み Class Participation</p>	<p>10%</p>	<p>「授業を通して修得できる力」の中の『倫理観』と『市民としての社会的責任』の修得に向けての一環として10回分の授業でディベートを行います。ディベートの結果報告を授業の4日後までにブラックボード（Bb）に提出してください。</p> <p>⇨点数配分：1（点）×10（回）=10点</p>

<p>課題等の取り組み Assignment</p>	<p>10%</p>	<p>「授業を通して修得できる力」の中の『倫理観』と『市民としての社会的責任』の修得に向けての一環として10回分の授業で教科書の予習リーディングのチェック（5分程度の問題）を行います。 ⇨点数配分：1（点）×10（回）＝10点</p>
<p>ポートフォリオの作成 Portfolio</p>	<p>30%</p>	<p>ポートフォリオの作成では「授業を通して修得できる力」の中の『多文化・異文化に関する知識の理解』の有無が問われます。ケーススタディーの準備として、1950～1960年代におけるアメリカ南部諸都市の地域的特性（人口動態、地域行政、地域経済、歴史、地理）についてWeb等を利用して調査・報告することが要求されますが、受講および復習を経ることで、調査結果が大幅に補強されることとなります。ポートフォリオには、アメリカ南部について最終的に学び得た内容を、任意の5都市を選び、記載してください。なお、第1回目の授業時に、参考として「モントゴメリー（アラバマ州）」をモデルにした調査報告見本を配布します。 ⇨地域的特性：各都市の人口動態、地方行政、経済、歴史、地理の5要素が説明されている必要があります（5点）。5要素が単なる箇条書きでなく関係性をふまえてまとめられていることも大切です（1点） ⇨点数配分：6（1都市につき6点）×5（都市）＝30点</p>
<p>備考 Note</p>		
<p>教員との連絡方法・オフィスアワー Office Hour</p>		
<p>以下のメールアドレスをとおしてアポイントメントを申し込んでください。 shig.kik@bus.tamagawa.ac.jp</p>		
<p>その他 Others</p>		

<p>授業概要と課題 Detailed Course Outline / Assignment</p>		
<p>第1回</p>	<p>テーマ Theme</p>	<p>なぜ日本の中学生は“I Have A Dream”を英語で読ませられるのか？</p>
	<p>キーワード Key Word</p>	<p>地域と差別／差別のメカニズム／マイノリティー／公民権運動／ワシントン大行進</p>

	<p>授業概要 Detailed Course Outline</p>	<p>初回の授業は、『地域研究 (アメリカ)』がどのような科目であり、大学 (学部・学科) 全体のカリキュラムの中でどのような役割を担っている科目であるかを、受講者として理解することが目的である。したがって、授業終了時には、「なぜ私は『地域研究 (アメリカ)』を学ぶのか」という問いに答えられることが期待される。これに答えられることが、初回授業のテーマである「なぜ日本の中学生は “<i>I Have A Dream</i>” を英語で読ませられるのか？」という問いについて答えることになると同時に、中学生・高校生の学びと大学生の学び (研究) の違いを知ることもなる。</p> <p>全 15 回の授業をとおしてアメリカ南部社会と人種差別の問題について扱うことになるが、初回の授業では、その前提として差別のメカニズムについて議論する。そのさいに、アメリカ南部の人種差別は社会的マイノリティー (アフリカ系アメリカ人) に対してなされたものである点に注意してほしい。南アフリカ共和国のような例外を除き、一般に差別はマジョリティーから社会的マイノリティー対して行われる。当時も現在もアフリカ系アメリカ人は全米人口の約 12 パーセントにすぎない。授業時の議論では、そのような社会的マイノリティーに対する差別を克服するためには、ユートピア的願望のみならず、きわめて政治的な発想と態度 (姿勢) が要求されるということを示唆したい。</p> <p>授業の最後の 20 分間を用いて、『地域研究 (アメリカ)』で課されるレポート、試験等の成績評価基準の説明を行う。「シラバス A」には、簡易型の成績評価基準が記載されているが、ここではより詳細な成績評価方法と基準を伝える。また、レポート等の執筆・提出期間が教育実習や就職活動と重なった場合の対応方法についてもこの 20 分間の中で説明される。</p>
	<p>授業外指示 (課題等) Assignment</p>	<p>初回の授業のため予習は課されない。各自、必要な復習を行うこと。第 2 回目以降の授業の予習内容については次項以降の当該ページを参照のこと。</p>
<p>第 2 回</p>	<p>テーマ Theme</p> <p>キーワード Key Word</p> <p>授業概要 Detailed Course Outline</p>	<p>アメリカ合衆国における南部 (1) —南部意識はどのように形成されたか?</p> <p>南部 (サウス) / 深南部 (ディープサウス) / サザンホスピタリティ / 南部意識 / 連邦政府</p> <p>南部はアメリカ合衆国のバイブル・ベルト (Bible Belt) の大半を形成する、教会出席人口がもっとも高い地域である。それにもかかわらず、最後まで奴隷制度廃止に反対し、奴隷解放後も 100 年間にわたって差別が続いた地域である。キング牧師が “<i>I Have A Dream</i>” の演説 (説教) を行った 1963 年は奴隷解放の 100 年後にあたり、それまでには南部の差別をなくそうとの意図を汲んだものであった。</p> <p>第 2 回目の授業は、キリスト教的伝統の強い地域で、なぜかくも長きにわたって人種差別が続いたかを考察することが主目的である。授業では、この問題について U. B. フィリップスとヴァン・ウッドワードの南部研究をベースに議論を行う。両者の南部についての主張 (研究成果内容) は相反するものであるが、ともに南部をアメリカ合衆国の他地域と切り離し、Another World (別世界) ととらえている点では一致している。それを「南部意識」もしくは「南部の特殊性」という言葉を用いて議論の中で説明する。</p> <p>続けて、ケーススタディーとして、アメリカ社会ではよく知られているサザン・ホスピタリティ (人情味あふれる南部の歓待の習慣) と呼ばれる南部特有の文化を紹介す</p>

		<p>る。そのうえで、ホスピタリティ (hospitality) の裏側に必ず潜む敵意 (hostility) の存在について人間の本性的な問題として考察する。ちなみに hospitality も hostility もともに hospice (ラテン語の hospes) から派生している。ホスピタリティについてはたんに南部の問題とだけ受けとめずに、わたしたちの日常的な問題としてもとらえることが受講生に求められる。</p>
<p>授業外指示 (課題等) Assignment</p>		<p>U. B. フィリップスとヴァン・ウッドワードの南部研究についてのプリント (全 22 頁) をブラックボード (Bb) からダウンロードして、授業までに読んでおくこと。そのうえで、以下の課題の解答を準備してくること。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) なぜウッドワードは南部の歴史をポジティブなものとしてとらえることができるのだろうか。その理由を 400 字以内で説明しなさい。⇨Word (A4 一枚) (2) ウッドワードは南部意識を説明するにあたり、アメリカ南部の歴史的特色とアメリカ合衆国の歴史的特色について言及している。それぞれを 3 点 (計 6 点) にまとめ、容易に比較できるように図表化しなさい。⇨Power Point (A4 スライド一枚) (3) なぜミズーリの州昇格問題が南部の政治的危機と言われたのか。その理由について調査してくること。そのさいに、参考・引用文献が明示されていない解答は評価外となるので注意すること。⇨Word (枚数は任意) (4) わたしたちが日常使うホスピタリティと呼ばれる概念の問題点を最低でも 2 点以上列挙しなさい。提出は任意。 <p>以上、上記 (1) ~ (3) はすべて Bb に提出すること。(4) のみ A4 用紙一枚に記載し、授業開始時に提出すること。</p>